

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期	平成 18 年 8 月
テーマ	地域コミュニティが主役
寄稿者	兵庫県知事 井戸 敏三

家庭や家族をめぐる問題

近頃過去には想像もできなかった事件、出来事が続出している。とくに、家族をめぐる事件が多い。なぜだろう。少なくとも家族が孤立しているのではないかと私は、核家族化が極まった現在特有の現象と捉えている。それだけに解決は社会全体で対応しなくてはならない。つまり、親子だけ、しかも少子化のもとの家族では問題や課題が内にこもり、行き着くところまで行ってしまふ。従前の親子孫の三世代家族や兄弟姉妹が多ければ、そのようないざこざも極端にまでいかずに何らかの方途が中に入っていくことが多いはず。あわせて、相談する人がいない、思いやってくれる人がいない、地域のある意味での良い「おせっかい」がない、地域コミュニティの問題でもある。私たちは、二つのサイドから孤立している。家族同士と地域コミュニティの両面からであろう。だからこそ、これからの大事な舞台は、家庭と地域コミュニティだといえる。家庭は、しかし、社会の基礎単位であるにしても、一番プライバシーの分野であり、なかなか他からその中味についてとやかくいいにくい。家庭教育のあり方が問われていても、解決策がないのはこのためであろう。

地域コミュニティへの期待

地域コミュニティは、まさしく家庭を育み、見守り、相互交流をする接点であり、保護者である。地域コミュニティの機能は、近隣関係をスムーズにすることからはじまって相互信頼の支え合いグループに進化していくはず。まさしく、今、地域コミュニティの機能や役割に期待が集まっている。というより、人と人との絆やつながりに対する期待といえよう。例えば、地域防犯グループの活動をみてみよう。小学生の登下校時間にあわせて地域の方々が見守り活動を展開する。単に見守るだけならかえって不審者とみられてしまうが、腕章やワッペン、おそろいのジャンパーなどを身につけておられると、子供達が「こんにちは」とか「おはよう」と声をかけてくるという。

このような挨拶から人と人との交流が始まるのだろう。声をかけあうことは ささいなことかも知れないけれど、同じ地域に仲間として暮らしている、生活空間を共にしていることを確認し合う最も基本の行動なのだろう。

震災復興の過程でもそうだった。高齢被災者の生活再建や活動を支えてくれたのは、ボランティアであり地域ぐるみの見守り活動だった。コミュニティプラザでのふれあい喫茶や

バザーなどほのぼのとした交流からはじまって、各戸を訪問する安否確認、健康維持や不安に応える「まちの保健室」活動などが展開されていった。

地域コミュニティが支援を行う機能を果たしつつある。ここで活動されているのが多種多様なグループである。自治会、婦人会、老人会、子ども会、いずみ会、PTA、青少年グループ、防犯グループ、緑化ボランティア、地域通貨グループなど、それぞれ地域内で活動してくれている。

県民交流広場

今年度から本格的に「県民交流広場」事業に取り組むことにしている。これは今までCSR事業として、カルチャー、スポーツ、レクリエーションの三分野を受け持つ施設の整備を行ってきた。ピッコロ劇場や但馬ドームなどの施設、各地の文化施設、そして里山公園の整備など、勤労者が英気を養う場として、全県的、地域的拠点施設を整備してきた。それ故、財源は法人企業の県民税法人税割の超過課税により調達し、法人企業の勤労者の共通のリフレッシュの場づくりをめざしてきたのだ。生活の場から離れて、スポーツや文化活動や保養を通じて心身ともにリフレッシュすることのための環境整備を行ってきた。そして、近年の地域コミュニティにおける活動の高まりをベースに、地域スポーツを通じてお年寄りから青少年児童生徒までがふれあう「スポーツクラブ 21 ひょうご」を進めているが、さらにスポーツだけでなく、文化活動でも、生涯学習でも、パソコンなどを活用した交流でも、ダンスや健康増進活動でも、リサイクルや福祉でも、また、自治会や婦人会や防犯グループや高齢者クラブやその他のグループ活動の拠点としても利用できる県民の交流拠点を整備することとしている。つまり、従来の生活空間から離れてリフレッシュする非日常型の活動施設づくりから一歩進めて、自らの生活空間の中で日常的にリフレッシュする日常的活動拠点の整備を行おうとするものだ。まさしく、地域コミュニティ活動の活発な展開にきっと寄与してくれるだろう。

小学校区単位に、既存の自治会館などを改修して、それぞれの地域活動にふさわしい施設として整備するとともに、これをベースに多彩な活動を展開してもらおう。県として、原則として一小学校区について総額一千三百万円、すなわち概ね八百万円から一千万円の施設整備費、三百万円から五百万円の活動費を支援することとしている。ぜひ地域ごとにふさわしい地域コミュニティの拠点をづくりあげて欲しい。

地域コミュニティこそ舞台

地域コミュニティこそいろいろな活動の舞台である。ここを舞台とする活動が家庭と結び、地域を通じて各家庭をつなぎ、核家族化して孤立しがちな家族を支えてくれることとなるはずである。地域コミュニティ活動に期待したい。

※ニューひょうご7月号より転載